

東京都大田区に対する2050年の都市デザイン

東京都大田区を対象として、防災・産業・観光・公共空間のあり方等を複合的に考えた、2050年の東京の都市デザインを提案して欲しい。

東京都大田区は、昨年新たに国際化を果たした羽田空港を持ち、東京の玄関口としてのまちづくりが注目されている。また日本の高い技術を支える町工場が多く存在するがその産業構造も常に変化し続けており、同時に古い街区の防災も考えなければならない。そのような地域の変化に伴う新しい都市計画が必要となっている。

このスタジオでは、大田区を対象として「2050年の東京」のあり方を考えることをテーマとする。現在の東京と対象地域の持つ問題点や可能性を同時に分析し、その未来像を提案するような都市のデザインを行う。特に3月11日より発生した東北地方の震災では、日本の都市が持つ多くの問題が顕在化された。この震災をきっかけとして今まで以上に災害に強い都市づくりが求められる一方で、単に防災という観点だけではない、エネルギーや産業構造、都市経済や都政、交通や観光・レジャー等の都市問題を複合的に想定した新しい都市像の提案が必要とされている。40年先の社会のビジョンとともに、現在の都市が持つ問題点を改めて考えて欲しい。

またこの課題では、マクロな提案（広域リサーチ的提案）とミクロな提案（都市空間のデザイン的提案）が両立された上で、リサーチ等のレポート作成にとどまらないビジュアライゼーションされた提言として示されることが望ましい。

各回の授業ではそれぞれゲスト講師を招きミニレクチャーとエスキスを行う予定。